

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4071601738, 株式会社 さくら苑).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は久留米市内でも高齢化率は低いものの高齢世帯、高齢者単身世帯の多い地域にあり、平成15年12月の開設より、地域の中で生活されている認知症の方々の住む『家』として事業を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時と会議時に事業所の介護理念を唱和し共有している。職員間のミーティングの際もケアの方針を話し合う場で「温かい家庭的な雰囲気」を軸として、何ができるかを皆で検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶や、地域の祭り、掃除、年末夜警等に参加して付き合いが続くように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、徘徊模擬訓練や認知症理解の啓発など、地域対応の連携に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして、地域の意見を聞きながら改善等取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	弊社代表が久留米市介護福祉サービス協議会の代表をしており、市の関係者と関係が深い。また困りごとがあれば市の担当者に教えていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年は外部の研修施設を借り虐待と身体拘束について全職員へ研修を行っている。また、毎月会議にてスタッフの状況と利用者の状況の把握を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染症の影響により外部研修には参加出来ないが社内研修において虐待防止について学び取り組んでいる。また、委員会においても各フロアのスタッフの日頃の様子を伝えあい虐待の芽を早期に見出し防止できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の玄関にパンフレットを置いている。成年後見制度の利用が必要な方においては入居時に説明し支援を行っている。また、年に一回は社内研修において、権利擁護の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談をし納得して頂いてから入居してもらっている。入居後も面会時などに話をする場を作り交流している。相談しやすい環境作りに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で体調等変化があった際には電話にて報告し面会時には日頃の様子を伝えている。ケアプランの更新、変更時は、ご家族の意見を聞きプランに反映するようにしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞くようにしている。管理者は個別での意見も上の会議に諮り会社へ意見の反映している。また、年1回全体会議を行い職員から会社に直接意見を言えるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、職能基準を明確化したうえで管理者が評価し代表者に申し出るシステムで自己評価を含め各職員がやりがいや向上心を持てるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては性別・国籍・年齢を問わず、人柄と高齢者支援に対する意欲を重視している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ感染症の為、社外研修の参加は難しかったが社内研修において年に一回人権教育に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修を開催し、多くの職員が参加し、研修報告書を提出し、ミーティング内において共有する体制を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会、その他の研修などを通じ、他事業所との交流に努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や以前の施設からの情報収集を行い、ご本人様の意向や思いを傾聴するよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との話し合いの場を設けて不安な事や要望などを伺いながら信頼関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を把握し、ご家族や関係者との連携を取り必要な支援を行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりを念願において、共に支え合える関係づくりに努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて短時間の面会制限がある中ではあるが、利用者様にはご家族との時間を少しでも提供し、情報共有を密に行うように努めている。変化等あれば、その都度報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も制限がある中ではあるが、ホームページにご家族専用の閲覧コーナーに写真や近況を載せたり、行事の際にお便りを送ったりと馴染の関係が続くように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で会話が弾むよう職員が間に入って話をふくらませている。できるだけ孤立しないように皆さんに配慮して支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても近くに來られた際は寄って頂けたり、年賀状でやり取りしたりと、関係が続くよう努めている。また、以前入居された方の親族もご入居頂いたり関係性が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や思いを傾聴し意向に沿えるように努めている。困難な場合は、ご家族様にたずね検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に頂く際には、生活歴をよく把握し、それを基にコミュニケーションを図りサービスの利用の経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、バイタルなど変化があれば記録し他職員に申し送り情報を共有するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにおいてスタッフ間で意見交換を行っている。ご家族様にも話を聞き、ご利用者様に合った介護計画が作成できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録のソフトに入力し共有している。ケア後の気づきや利用者の個別の事項は別途ノートを作成し個人ごとに管理し介護計画の見通しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズを柔軟、適切に捉えられるように、ご利用者様の状況についてご家族や主治医と情報交換を行いながら必要時に病院への受診、訪問看護等を受けられるよう支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々とは日課の散歩時に挨拶したり、野菜を頂いたりと交流を行っている。地域資源の活用はうまくできていない面がある。活用と連携が必要課題である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医を確認してご家族の意向に応じた、サービスの利用、適切な医療を受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の様子観察やバイタル測定等を行い看護職員と共有することで、状態観察に努め、変化があれば医師職等に適切に繋ぐよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き医療関係者と情報交換を行い事業所内のスタッフにも個別ノートを使い情報を共有している。また、ご家族とも連携を取りながら退院時に安心して帰ってきていただける様支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方をドクターと連携し、早めにご家族との話し合いを持つよう取り組んでいる。ただ、地域の関係者との連携はなかなか出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等は常日頃から声をかけたり、急変時に管理者が駆けつけるような体制を作ったりしているが、定期的な訓練はできていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策についてはBCP作成を元に、災害訓練の実施に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重しスタッフの声掛けにより利用者が不快な気持ちにならないように取り組んでいる。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者様は意見をしっかり聞いて、自己決定が難しい利用者様は表情等をしっかり読み取り、ご家族の意見も聞いて意向に沿えるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日に散歩に行ったりリビングでの体操をご利用者のペースに合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴い、衣替えの支援を行ったり、利用者様の希望を優先した服装を心掛けるよう取り組んでいる。外出時には外出用に洋服を準備したりしながら楽しんでいただけよう心がけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように一緒に調理の手伝いをしたり、畑で野菜を育て調理するなどの楽しみを実施している。また、ご利用者が食べやすい様、軽いお皿や使いやすいコップ等で工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事形態にて提供するようにしている。水分量に関しては、利用者様一人一人の水分摂取目標を設定し水分補給を行って頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた声掛け誘導行い、うがいなど出来ない方には、口腔ガーゼ、スポンジブラシなどを使用している。一日三回口腔ケアを徹底し清潔を保つよう支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個人別の排泄パターンや習慣を職員間で共有し排泄表で状況を確認しながら声掛けや誘導支援等を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様ごとの排便リズムをつかみ、運動や水分、食物繊維の食べ物を取り入れられるよう努めている。また、服薬されている便秘薬を理解し排泄表や朝の申し送り等で共有し個々に応じた支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に一度は入浴できるよう支援している。入浴拒否がある方にはできるだけ尊厳を尊重し対応している。個人のタイミング等に合わせる支援はできていない。便失禁時は入浴し清潔が保てるようにしている。ただ、一人一人のタイミングに合わせての入浴は出来ていない。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して良く休めるよう室温や明るさの調節や寝具や家具の設置等を行っている。また、就寝時間も一人一人に合わせて誘導支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に個別の服薬ファイルを保管し、服薬状況や症状についてスタッフ間で情報共有に症状の変化や把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の好きな事や得意な事をレクリエーションの中に取り入れたり家事手伝い等も適度に手伝って頂いたりして気分転換が図れるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症後社内で外出支援を制限している為なかなかできていない。近所へ散歩等には出かけている。敬老会では近くのホテルを借り外出支援を行えた。また、直近では蕎麦を食べに外出できた。今後支援を増やしていく必要がある。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい面がみられるため、個別に苑の方で管理している。個々に声掛けし必要なものは買い物に出かけ、利用者様にお金を渡し支払いをしていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればご家族へ電話にて会話して頂いたり、季節の変わり目には手紙を書いて頂いたり支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節にあった飾り付けを行ったり衛生面に気を付け共用の空間での居心地の良い生活が出来るような工夫に心がけている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の席を近くに設置したり一人でゆっくりと過ごしたい方には長イスを設けたり歌が好きな人にはテレビで歌を流したりして過ごして頂けるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者様の好きな品物や写真等を飾ったり、ご家族からのプレゼント等を置いたりして淋しい思いをさせない様に努めている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が不便に思われないようトイレや居室に名称を表記したり、部屋やフロアには手すり等を設置しながら安全に生活かつ自立した生活が送れるよう努めている。直近では、トイレのドアを引き戸へ変更し使いやすい配慮をしている。		